



オリジナルバージョン

セッション2 自己評価クイズ

選択問題（合計 10 問）を使用して、セッションで学んだ「家庭外に置かれた子どもたちの不安定な愛着反応」について確認します。

1. どんなことに、子どもたちの不健全な愛着行動を引き起こすおそれがあるか。
 - A. 個人の態度
 - B. 健全な養育の欠如
 - C. 教育の欠如
 - D. 貧困
2. どうすれば、回避型の愛着行動を認識できるのか？
 - A. 自立していることをみせつけ、感情や気持ちを隠す子どもに注意する
 - B. とても恥ずかしがり屋の子どもに注意する
 - C. おもちゃで遊びたがらない子どもに注意する
 - D. 滅多に話さない子どもに注意する
3. 回避型の行動を呈する子どもとのプロの接し方はどのようなことか？
 - A. 養育者の決定を押し付けることを試みる
 - B. 子どもが間違えたときに罰を与える
 - C. 優しく、譲らない姿勢で、我慢強く接する
 - D. 子どもに気分を害されても、誰にもそれを話さない
4. どうすれば、無秩序型の愛着行動を認識できるか。
 - A. あまり話さない内気な子どもに注意する
 - B. 親を求め、親のことを話す子どもに注意する
 - C. 理由もなく、よく泣く子どもに注意する
 - D. 背丈が低く、人や物とのうわべだけのふれあいをする子どもに注意する
5. 無秩序型の行動を呈する子どもとのプロの接し方はどのようなことか？
 - A. 子どもに極めて冷たい姿勢を示す
 - B. することすべてに、可能な限り長い時間にわたり、子どもたちを集中させようとする
 - C. 子どもが実際の年齢よりも未熟な能力と特徴を持つものと捉えて接する
 - D. 子どもとの物理的接触（スキンシップ）と対話を極力避ける



6. 健全な愛着の形成を促せる可能性が最も高いのは、いつ頃の子どもですか？
 - A. 生後 20 ヲ月未満
 - B. 小学校へあがる前
 - C. 生後数日間
 - D. 1 歳になる前

7. 不安定な愛着が悪影響を及ぼすのは
 - A. 健康面全般
 - B. 学習能力の発達
 - C. 子どもたちの社会的つながりの築き方
 - D. 乳幼児期の身体的発達

8. 子どもが自分自身と他の人に前向きな考え方ができ、助けが必要なときにそれを求められるのは、
 - A. 乳児期に健全な養育を受けた証拠である
 - B. 自尊心がある証拠である
 - C. 社交的な性格の特徴である
 - D. 気楽な子ども時代を過ごした証拠である

9. 物や行動に過度の愛着（執着）を形成するのは、
 - A. 不安定な両価型（抵抗型）愛着行動
 - B. 不安定な回避型愛着行動
 - C. 不安定な無秩序型愛着行動
 - D. 上記すべて

10. 不安定な両極型愛着行動を引き起こす可能性があるのは、
 - A. 過度に厳しい養育者
 - B. 過度に優しく、許容する養育者
 - C. 極めて予測不可能な行動をする養育者
 - D. 乳幼児期に激しく入れ替わる養育者